

東芝メディカルシステムズ
三次元画像で心筋の動きを追跡する
超音波診断装置「Artida」を開発
(2007/9/7)

東芝メディカルシステムズ(株)は、心臓の立体画像をリアルタイムに表示可能な循環器用超音波診断装置「Artida(アルティーダ)」を開発した。Artidaは、新たに開発した小型・軽量のマトリックスアレイプローブにより電子的に超音波ビームの三次元走査を行い、心臓の立体画像や任意の多断面像をリアルタイムに表示するCardiac4D機能を搭載している。さらに、パターンマッチング法により心筋の動きを追跡し、解析・表示する機能を三次元画像上で実現している。また、独自のエルゴノミクスコンセプト「iStyle(アイスタイル)」に基づき、自在に動くアームと大きなグリップハンドルを備えることにより、見やすい位置へすばやく移動可能な高画質・大画面液晶モニターを採用。パネル上のスイッチレイアウトは循環器検査でのワークフローを考慮して使いやすく配置されている。

＜主な特長＞

- **Smart Core Engineで、4Dイメージをリアルタイム処理**
Artida™は、システムプラットフォームに新設計のSmartCore Engineを採用。従来比1.6倍(当社比)となる80個以上のCoreプロセッサを高速デジタルインターフェイスで相互に連結することで、4Dイメージングで必要となる大量のデータを高速リアルタイム処理。より精度の高い画像描出と高度な解析機能を可能にしています。
- **高画質を支える、新開発の広帯域プローブを採用**
新開発の広帯域プローブと超音波ビーム形状の立体的なコントロールにより、シャープでアーチファクトの少ない超音波送受信を実現。これまでになく高画質な断層面を描出します。さらに、4Dボリュームデータの高速収集と東芝独自の3D Tracking技術により、先進の心臓壁運動解析を現実のものとしています。

● 操作性に優れ、患者さんに安心の

検査を提供するコンソール

東芝独自のエルゴノミックスコンセプトiStyle™をさらに進化させました。簡潔なキー配置に加え、キーアサインの変更にも柔軟に対応。循環器検査における日常的な検査効率を飛躍的に高めます。

また、コンソール位置は自由に調整可能で、フレキシブルアームで移動の容易な19インチの大画面LCDモニターとともに、術者の負担を大幅に軽減します。



東芝
(Artida「アルティータ」)